

TEMPUS テンプス

2017年(平成29年) **61**号

まぼろしの寺院「海岸寺」



海岸寺跡は貝塚養護老人ホームになっています



敷地の奥には海岸寺の遺構が残ります

も く じ

まぼろしの寺院「海岸寺」の石灯籠

講演会「善兵衛の時代の天文学」を開催しました

／岩橋善兵衛と望遠鏡② - 初めての天体観測 -

昨年10月より毎月開催～『貝塚市の70年』を読む会

／貝塚を学んでもらうために「名探偵つげさん」

古文書講座

孝恩寺の仏像 - 菩薩⑥十一面観音 - / 水間街道沿いの道しるべ その4

文化財講座・セミナー

まぼろしの寺院「^{かいがんじ}海岸寺」の^{いしどうろう}石灯籠

岸和田市との市境にあたる半田の海岸寺山とよばれる丘陵地には、海岸寺という徳川家歴代将軍をまつる寺院がありました。今回のテンプスでは、かつて海岸寺境内に建立され、現在は泉南地域の各地に残る6基の石灯籠を紹介します。

海岸寺は、岸和田藩主の岡部家初代宣勝（のぶかつ）が、1651（慶安4）年に亡くなった江戸幕府の第3代将軍徳川家光の死をとむらうために建立した寺院です。

この寺院は、1656（明暦2）年の冬から翌年の夏にかけて造営されました。宗派は天台宗、本山は江戸にあった東叡山寛永寺（とうえいざんかんえいじ）でした。本堂には、4代将軍家綱以降も将軍が亡くなるたびに高さ約80cmもある歴代将軍の位牌が奉納され、まつられた将軍の命日には藩主自らが参拝していました。また、位牌の奉納にあわせて、境内には高さ3m弱の大きな石灯籠が建立されました。

明治維新をむかえ、海岸寺は廃寺となりました。その後、本堂は名越村（なごせ、貝塚市名越）の常照寺に、仏像や位牌などは南泉寺（泉南市樽井、江戸時代は海岸寺の末寺）に移されました。南泉寺には境内にあった石灯籠も移されましたが、現存しているものは4基のみです。残りのものは貝塚市津田南町の旧家に1基が残されていることが知られていましたが、近年、市民グループ「海岸寺史料探究同好会」がその行方を探し始めた結果、平成27年に岸和田市本町で新たに1基が発見されました。

貝塚市津田南町に残る石灯籠

貝塚市津田南町の個人宅に残る石灯籠は、3代将軍家光のために建立されたものです。竿（さお）とよばれる最も長い円筒状の柱部分に、右のような文字が刻まれています。その文字によれば、1657（明暦3）年4月20日、岡部家2代行隆（ゆきたか）が建立したもので、「両基」という表現から、もともとは2基あったことがわかります。「大猷院」（たいゆういん）という称号は、諡号（しごう）という死後におくられる名前で、家光のことを指しています。

大猷院殿 尊前
奉献石灯籠 両基
明暦三丁酉四月廿日
岡部内膳正藤原行隆



平成28年度貝塚市郷土資料展示室特別展

「まぼろしの海岸寺 - 徳川家歴代将軍をまつる寺 -」のお知らせ

市民グループ「海岸寺史料探究同好会」の活動成果を活かし、泉南地域の各地に残るまぼろしの寺院「海岸寺」に関する資料を多数展示しています

会期 平成29年3月11日（土）～4月23日（日）

会場 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

開室時間 午前9時30分～午後5時

休室日 毎火曜日、3月20日（月・祝日）、

3月31日（金・図書館休館日）

観覧料 無料



もと海岸寺本堂の鬼瓦（名越 常照寺所蔵）

泉南市樽井に残る石灯籠

泉南市樽井の南泉寺に残る4基の石灯籠は、5代将軍綱吉、11代将軍家斉（いえなり）、12代将軍家慶（いえよし）、14代将軍家茂（いえもち）のために建立されたものです。綱吉は「常憲院」という諡号で、竿部分に、右のような文字が刻まれ、1709（宝永6）年正月10日、岡部家3代長泰（ながやす）が建立したことがわかります。

この他、「文恭院」という諡号の家斉のものは1841（天保12）年閏（うるう）正月晦日に岡部家10代長和（ながより）が、「慎徳院」という諡号の家慶のものは1853（嘉永6）年7月22日に岡部家11代長発（ながゆき）が、「昭徳院」という諡号の家茂のものは1866（慶応2）年8月20日に岡部家12代長寛（ながひろ）が、それぞれ建立したものです。

奉獻石灯籠
常憲院殿 尊前

宝永六年己丑正月十日
岡部美濃守藤原長泰



岸和田市本町に残る石灯籠

岸和田市本町の個人宅に残る石灯籠は、7代将軍家継（いえつぐ）のために建立されたものです。家継は「有章院」という諡号で、竿部分に、右のような文字が刻まれ、1716（正徳6）年4月晦日、岡部家3代長泰（ながやす）が建立したことがわかります。

海岸寺の石灯籠は、幕末に近い時期の絵図では12基描かれています。一方、灯籠に刻まれた文字からは3代将軍家光のものが2基あり、その後4代将軍家綱から14代将軍家茂までのものが1基ずつ建立されたと考えると、計13基あったものと考えられます。これら13基の石灯籠のうち数基は、

明治の世を迎え、海岸寺が廃寺とされた時、当時の半田村の地から南泉寺をはじめ泉南地域の各地へ移されたようです。残りの所在は未だ不明ですが、今回紹介した6基の石灯籠は、市内にあったまぼろしの寺院の姿を今に伝える貴重な文化財の一つと言えるでしょう。

奉獻石灯台
有章院殿 尊前

正徳六年丙申四月晦日
従四位下美濃守岡部氏藤原長泰



第110回かいつか歴史文化セミナー

講演会「紀州徳川家の参勤と紀州街道」のお知らせ

紀州街道を通行した紀州徳川家の参勤と地域の関わりについて、本市文化財保護審議会委員である和歌山大学名誉教授の藤本清二郎さんを講師にお招きし、お話いただきます。

日時 平成29年3月25日（土） 午後2時～3時30分

会場 貝塚市民図書館 視聴覚室

講師 藤本清二郎さん（和歌山大学名誉教授）

定員 50名

参加費 無料

申込・問合せ：6ページ連絡先へ



紀州街道旧旅籠町付近（現在の南町）

講演会「善兵衛の時代の天文学」を開催しました

平成28年12月3日（土）、市立善兵衛ランドにおいて、来年度開館25周年をむかえるプレイベントをかねて、講演会「善兵衛の時代の天文学」と12月の星空観望会を開催しました。

講演会には、大阪市立科学館学芸員の嘉数次人（かずつぐと）さんを講師に迎えました。徳川幕府の8代将軍吉宗の時代以降、西洋の知識を得た大坂の天文学者たちが国家事業であった改暦事業の中心となったことで日本の天文学は大きく発展を遂げました。そして、改暦のための天体観測で「縁の下の力持ち」として活躍したのが、貝塚生まれの岩橋善兵衛の望遠鏡であったことなどを詳しくお話いただきました。

講演会後には、展示室の解説および12月の星空観望会をおこないました。この日は少し雲がかかっていましたが、月や太陽系の惑星、「すばる」の名でおなじみのプレアデス星団など、大型望遠鏡での星空を楽しみました。



大阪市立科学館学芸員嘉数次人さんによる講演

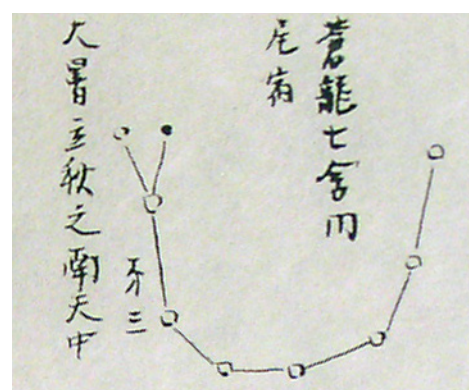
岩橋善兵衛と望遠鏡② - 初めての天体観測 -



テンプスでは、前号（60号）から文献資料に見る善兵衛の業績を紹介しています。前号に引き続き、今回はその時に観測した星座のうち、尾宿（びしゅく）の観測の様子を紹介します。

尾宿（びしゅく）

尾宿は、二十八宿（にじゅうはっしゅく）という古代中国の星座の一つで、さそり座の尾にあたる9つの星で構成されています。『望遠鏡観諸曜記』には「左鉤（かぎ）上の白気（はっき）、その実小星二十三、ただ聚（めぐ）るなり」とあり、肉眼では白い星雲状に見える散開星団を見て、23の小さな星が集まっている様子を観測しています。



「尾宿」図

このほか、奎宿（けいしゅく、アンドロメダ座の9つの星とうお座の7つの星で構成）、牛宿（ぎゅうしゅく、やぎ座の6つの星で構成）を観て、M31アンドロメダ銀河、二重星や連星となっている星々を観測しています。また、星座のほか、北斗七星の開陽星（かいようせい、ひしゃくの柄の先端部分から2番目の星）や北極星も観測しています。

※貝塚市立善兵衛ランドでは『望遠鏡観諸曜記』（写本複製品）を展示しています。

昨年10月より毎月開催～『貝塚市の70年』を読む会

貝塚市制70年を記念して平成25年に刊行した『貝塚市の70年』を活用し、新たな歴史講座「『貝塚市の70年』を読む会」をスタートしました。主に近代を中心に議論していくことから、会場はかつての大日本紡績貝塚工場の事務所として使われていた貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）でおこなっています。



歴史展示館で記念講演を開催

講座のスタートを記念して、『貝塚市の70年』の編纂委員長で、関西学院大学文学部教授の高岡裕之さんを講師に迎え、「貝塚市の歴史の面白さ—『貝塚市の70年』編纂の経験から—」と題して、平成28年10月30日に記念講演を開催しました。記念講演では貝塚市誕生のなりたち、水間鉄道の開通にまつわる話など、新たな貝塚の歴史像に触れる機会となりました。参加者のみなさんからは「水間鉄道の役割が市制に影響を与えたとの説明はよく理解できた」、「貝塚町・貝塚市の先駆的事業を知り、自慢できることが多いことに驚きました」などの感想が寄せられています。なお、3月26日（日）に「明治維新後変わりゆく貝塚」をテーマに開催する予定です。ふるってご参加ください。

『貝塚市の70年』を読む会 記念講演 開催のお知らせ

「泉州における綿業の近代化」

講 師：岡田光代さん（大阪府立大学 経済学研究科 准教授）

日 時：平成29年4月23日（日）午後1時30分～3時（時間にご注意ください）

会 場：貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）

申込・問合せ：6 ページ連絡先へ



貝塚を学んでもらうために「名探偵つげさん」

貝塚市教育委員会では、「夢」を持ち、たくましく生き、貝塚で学び育ったことを「誇」らしく語るここのできる子どもの育成をめざしています。そんな子どもたちをはぐくむ学びが「貝塚学」です。

平成28年11月19日に「貝塚学こども講座」として、また、「かいづか家族の日」の催しの一つとして、家族で参加する「名探偵つげさん」を開催しました。「名探偵つげさん」は、中央小学校をスタートして熊野街道周辺にある史跡（半田一里塚、丸山古墳）、寺社（南近義神社、吉祥園寺）などをめぐり、

151名が参加して6つの謎を解き明かしました。街道のなごりを探したり、古墳の大きさを測ったりして貝塚の歴史について学びました。

このような取組みは、子どもたちが伝説や文化財に興味を示すようなストーリーと謎を解き明かす工夫により、楽しんで貝塚の伝説や文化財を学ぶ機会となっています。



熱心に聞き入る子どもたち



半田一里塚を歩く子どもたち

古文書講座 - 市内にのこる身近な古文書 -

◆「ぼっかんさんの江戸参府記 ～道中編～」

平成 28 年 10 月 12 日から 11 月 9 日にかけて、毎水曜日の 5 回にわたり、「ぼっかんさんの江戸参府記～道中編～」と題して古文書講座を開催しました。

今回は、江戸時代に願泉寺の住職であるとともに、貝塚寺内町の領主でもあったト半（ぼくはん）氏が、將軍の死去に伴い、經典の献上と新將軍に領主の承認を意味する朱印状（しゅいんじょう）をもらうため、江戸に出向いた際の記録「参府記」の解説をおこなう「ぼっかんさんの江戸参府記」の道中編として、

1858（安政 5）年 9 月に貝塚から蹴上（けあげ、現在の京都市左京区・東山区・山科区の境が接する場所）までの道中の様子を考察しました。

願泉寺を出た一行はかつて「桜坂」と呼ばれた現在の北小学校の教室と校庭をつなぐ階段辺りから、「御下筋」に出て、沿道の見送りの人たちに取り囲まれながら貝塚を出発しました。北境川を越え岸和田藩領に入っても、願泉寺ト半家と関わりの深い町人や村人らが、道中の安全を祈って見送りに出ていました。堺までは 50 名近い人たちが行列を連ねていましたが、堺から先は 20 名程度に減ってしまうことがわかりました。また、大坂からは道頓堀で船に乗り込み、一気に淀川をさかのぼりました。当初の予定では伏見に着く予定でしたが、雷雨により出発が遅れたため手前の淀（現在の京都市伏見区納所（のうそ）町付近）で小休止。東寺周辺で在京の家来 2 名が出迎えて蹴上までお供をした話で、今回の講座は終了しました。

道中の様子がいきいきと伝わってくるテキストに、受講者のみなさんから「続きを読みたい」、「江戸まで続けてほしい」との声が多く寄せられました。



熱心に聞き入る受講者のみなさん

古文書講座 52（通算 249 回～ 251 回）開催のお知らせ

テーマ：根来（ねごろ）者と泉南・紀北—由緒書にみる戦いの様子—

日時：第 3 回 3 月 8 日、第 4 回 3 月 15 日、第 5 回 3 月 22 日

いずれも水曜日午後 1 時 30 分～ 4 時

会場：貝塚市民図書館 2 階視聴覚室

資料代：100 円

申込：住所、氏名、電話番号を明記の上、はがき・Eメール・FAX、電話いずれかで、下記まで事前にお申込みください。

連絡先：〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 12-1（貝塚市民図書館 2 階）貝塚市郷土資料室

TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7107

E mail shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

孝恩寺の仏像—菩薩^{ぼさつ}⑥ 十一面観音^{じゅういちめんかんのん}—

木積（こつみ）の孝恩寺には、平安時代制作の19 軀（く）の仏像が安置され、うち18 軀が重要文化財に指定されています。今回は、その中から十一面観音立像を紹介します。

【重要文化財】十一面観音立像 1 軀

時 代 平安時代後期（9～10 世紀）

像 高 156.8 cm

指定年月日 1913（大正2）年4月14日

観音菩薩は、三十三に姿を変えて衆生（しゅじょう、生きとし生けるもの）のあらゆる願いにこたえてくれるといます。十一面観音はその変化した姿の一つで、頭上に10または11の小さな面（顔）をつけた観音菩薩です。本像は、右手を垂直に下ろし、左手は曲げて華瓶（けびょう）を持ち、やや右に腰をひねって蓮台上に立ちます。髻頂（けいちょう）から裾先まで、右手先、左肩を含んで、カヤと思われる一材で彫り出しています。左肩先は別材とし、左臂（ひじ）より先、頭上の小面、持物（じもつ）は後世に補われたものです。全身には黄土彩（おうどさい）をほどこしています。ふつうは両足前面に2条通る天衣（てんね）とよばれる衣が1条のみであるのは、本像および孝恩寺の仏像彫刻の特色の一つです。やや粗野な作風ですが、面部や衣部の彫りは深く、製作は9世紀～10世紀ごろと思われます。

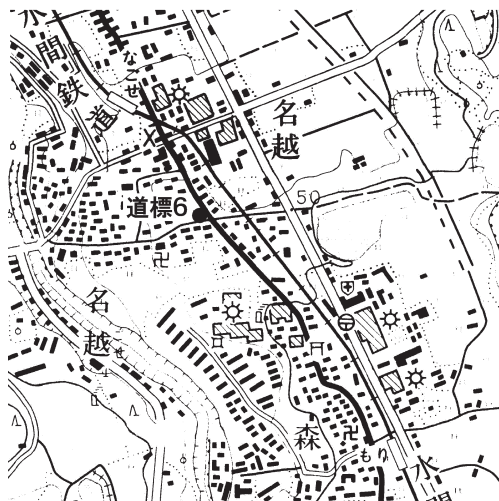


水間街道沿いの道しるべ その4

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。今号では、名越（なごせ）に残る1基を紹介します。

水間街道道標6（名越）

名越を通る水間街道沿いの交差点の一角にまつられている道しるべで、三之丞山大師（さんのじょうやまだいし、かつて千石堀城跡の山中にあった大師堂）、水間、それぞれの方向を示したものです。正面上部に弘法大師と思われる坐像を浮き彫りにし、下部に「右三ノ上山大口／すぐ水口」と刻まれています。「すぐ」は近くではなく、まっすぐという意味です。



文化財講座・セミナー

平成 29 年

◆ 3 月

郷土 8 日 (水) 古文書講座 52 ③

郷土 15 日 (水) 古文書講座 52 ④

郷土 22 日 (水) 古文書講座 52 ⑤

郷土 25 日 (土) かいづか歴史文化セミナー「紀州徳川家の参勤と紀州街道」

歴史 26 日 (日) 「貝塚市の 70 年」を読む会⑥ 「明治維新後変わりゆく貝塚」

「根来(ねごろ)者と泉南・紀北

ー由緒書にみる戦いの様子ー」

◆ 4 月

歴史 23 日 (日) 「貝塚市の 70 年」を読む会⑦

記念講演「泉州における綿業の近代化」

◆ 5 月

歴史 28 日 (日) 「貝塚市の 70 年」を読む会⑧ 「都市間鉄道の発展と水間街道」

※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館

郷土資料展示室

特別展「まぼろ
しの海岸寺 - 徳川家歴
代将軍をまつる寺 -」

3/11(土)

4/23(日)

「貝塚市の
指定文化財」展
第 1 期

5/13(土)

貝塚市歴史展示館(ふるさと知っとこ!館)企画展

「貝塚寺内町と岸和田藩の村々」のお知らせ

貝塚寺内町と岸和田藩領内の村々について、絵図や写真等をパネル展示で紹介しています。

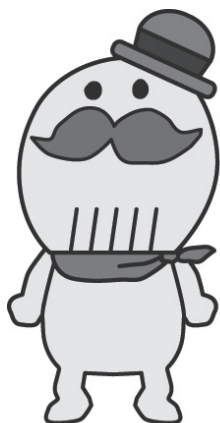
会期 開催中～平成 29 年 4 月 28 日(金)まで

会場 貝塚市歴史展示館(ふるさと知っとこ!館)

開館時間 午前 10 時～午後 4 時

休館日 毎火曜日、3 月 20 日(月・祝日)

かいづか文化財だよりテンプス 61 号



貝塚市イメージ
キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ籐」
をモチーフとしたデザ
イン。
イベントごとが大好き。
普段はのんびり、でも
祭りには萌えます。



平成 29 年 3 月 3 日発行

貝塚市教育委員会

〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年 3 回発行 : 各 1,000 部